

松本よしこのすすめる重点7項目

①女性が活躍できる環境づくり

働く女性も家庭にいる女性も

「女性」と一言と言っても、若い世代であったり、働く世代であったり、子育てをする世代であったり、定年を迎え仕事を終えた世代であったり、さまざまなステージがあります。その中で、「女性の活躍」といった場合、職場での女性の管理職を増やすことなどとともに、家庭内で育児や介護をしている女性などにも光を当てて、支援していきたいというのが私の思いです。

これから区議会で問われる「女性」というテーマ

現自民党政権では女性登用の促進が唱えられ、「女性の輝く社会」が求められています。千代田区議会の場合、女性議員は、たとえば私だったら「教育」、他党の女性議員は「ボランティア」や「福祉」など、自分の得意分野を中心に活動を展開しています。しかし、今まで充分には「女性」に特化した施策が行われていなかったのではないかとというのが正直なところだと思います。これからは「女性」という横のつながりを意識しながらの政策をすすめていくことが大事だと考えています。それが女性の視点から区政を推進するという女性議員の強みだと思います。

多様なニーズを聞く

具体的にはどうしていくかというと、一人ひとりの女性のニーズを聞いて、それに合う手立てを考えていくというのが自分の役目だと思います。女性を取り巻く環境が昔とは変わってきている中で、昔ながらの型にはまった女性像を描いているだけでは、よい施策は生まれません。地道ではありますが、いろいろな女性の生き方を知ること、同じ女性として課題の解決を目指したいと思っています。

女性の力が存分に活かせる場

「環境づくり」とは「女性の力を存分に発揮できる場づくり」だといえます。外の仕事に就いている場合でも、家業を営んでいる場合でも、家庭のことを取り仕切っている場合でも、あらゆる場面において、女性のライフワークが充分に実現できる環境を考えていくことが大事です。そこには仕事と子育ての両立の問題や、介護の問題などがあるかと思えます。そういった問題に対してどういったサポートができるのかを一緒に考えていきたいです。

女性がいつまでも安心して暮らせる場

区内の独身独居の働く女性から「自分たちのような女性が高齢になった時の暮らしのサポートを考えてほしい」と言われたことがあります。キャリアウーマンも増え、結婚しないという選択をする女性たちも増えています。そういった女性たちが安心して老後を暮らす方法…たとえば一つの可能性として高齢になった女性たちが集合的に生活することなども考えられます。一人暮らしの高齢者の問題は女性に限ったことではありませんが、女性ならではの悩みもあるはずです。そういったことにも目を向け、区政において課題解決できることがあれば力になっていきたいです。

②健康寿命の増進をはかる

自宅介護の経験から実感 元気に長生きすることの大切さ

「健康寿命の増進」という方針は、自民党の女性議員全体の課題としてあげているところですが、日本人の平均寿命を考えた時、長く続く人生のステージにおいて、とにかく一人ひとりが元気で、病気にならず健康に暮らせることを目指さなければなりません。

私自身、父を自宅で介護しました。散歩が何よりも好きだった父が自分で歩くことがかなわなくなって6年間を寝たきりで過ごした姿は今でも忘れられません。介護する側以上に、本人がつかったことと思います。病気は仕方なかったとしても、寝たきりにならないで済んだ手立てがあったのではないかといつも考えていました。

健康増進対策は後期高齢者になってから？

現在では健康増進や寝たきり防止、認知症予防のための運動などがシルバースタジオ等でさかんに行われるようになりました。けれどもシルバースタジオは60歳から利用できるにもかかわらず60代の利用がほとんど見られないのが現状です。「あれは後期高齢者がやるもの…」という考えが強いようです。しかし果たしてそうなのでしょうか。

今の60代は確かに元気でまだまだ若いですが、しかし、元気なうちから将来に備えていくことが大事なのではないかと思えます。ウォーキングや山登りなど、早い時期に自分にあった健康づくりの方法を見つけてそれを持続させていく、そういった意識をもってもらふことや、健康増進活動への参加促進が大事な施策であると考えています。世界でもトップクラスで加速している日本の高齢化社会ですが、それが豊かなものであるためには「健康寿命が長い」ことが重要になってきます。早めの対策が急がれるところです。

③多様化した子育てのニーズに応える

時代が変わっても、子育ての要点は変わりません

議員として14年間活動する中で、たくさんの保護者の方々の子育ての悩みを聞いてきました。自分が千代田区の幼稚園教諭だった時代とはまた違ってきている子育てを取り巻く変化を、現役の保護者の方たちから学ばせてもらっています。

どんなに時代や環境が変わっても変わらないのは「親子関係のきずな」と「家庭教育の確立」の大切さだと思っています。このことが諸事情により成り立たないケースもありますが、いかにしてこの二つの要素を基に子育てのニーズに応えて、子育ての環境を整えていけるのかが私の使命だと思っています。「親が子どもを育てる」という意識をしっかりと親御さんにもっていただくことが大事であり、そのサポートをしていきたいと考えています。

「千代田区の子育て、教育」の「質」を常に考える

千代田区は待機児童がゼロであることが大きくマスコミなどでも紹介されていますが、ただ施設が充実しているだけではなく、子育ての基本をふまえた事業展開が行われることが目指されねばなりません。

さらに教育ということについて言うならば、千代田区の教育というのは教育宣言でも言われているように「伝統と文化を大切にした質の高い教育」こそが、ここ千代田区の誇りであり、優秀な子ども達を育ててきた基盤ともいえます。このクオリティを絶対に崩さずに、それを持続していくことを議員の立場からサポートすることが、教育に携わった者としての役目だと思っています。

現議会で教育の専門家は自分一人であることの使命

14年間の議員活動の中で、子育てや教育について、保護者の方から相談された時は、できる限り現場を見に行き、常に現場の教員、保育・教育担当の行政職員、保護者の方々と連携を取りながら一緒に課題の解決に向かうことをしてきました。

教育の問題について他の議員も語ってはいますが、私の場合は31年にわたる千代田区での教員生活、管理職の経験から、教育現場の組織や運営に対する知識、人脈があります。行政の方針を検討し、時には批判・改善を迫っていくには専門的な視点が必要です、現区議会でその専門性があるのは自分だけだと自負していますし、今後も千代田区の保育や教育が質の高いものであり続けるには、自分のような存在が必要だと思っています。

さらに自民党議員であることで政策の実現力も高いことも自分の強みだと思っています。政策批判だけするのは簡単ですが、実際の施策として実現しなければ意味がありません。教育は机上の空論では済まないものであり、常に現場と連動しながら改善されていくべきものです。保護者の方々の声を聞きながら、行政と現場をつないでいくのが自分の使命だと思っています。

区政の中だからこそ可能な多様化への細かな対応

次世代を担う大切な子ども達が千代田区で質の高い、子育て支援と教育を受け続けられるように、区政の中だからこそできる細かいケアを心がけていきたいです。今後とも保護者の方々、現場とのコミュニケーションを密にしながら子育ての課題解決を区政で行い、質の高い教育の持続に努めていきたいです。

④東京オリンピック・パラリンピックに向け、千代田を発信

二度目の東京オリンピックを迎える驚き

2020年の東京オリンピックは「競技の祭典」でもあるとともに、「文化の魅力を世界に発信する」という大会でもあります。東京都などがいち早く「文化プログラム検討部会」などを立ち上げていますが、千代田区も東京都の方針に沿いながら2014年度に東京オリンピックのための特別委員会を設置し、2015年度にはオリンピックへ向けた部署も発足します。

前回の東京オリンピックのことはよく覚えています。幼稚園に就職してすぐに初めての教え子たちとテレビで競技を見た思い出があります。また再び東京でオリンピックが開催されるとは夢にも思いませんでしたが、当時の「高度経済成長期の日本」とは違う「今の日本」をいかに発信していくのが大事なポイントになるのでしょうか。

世界に文化を発信するオリンピックに

2012年のロンドン大会ではかつてない規模でオリンピックと同時に文化イベントが開催されました。文化イベントの総数は約18万件、参加者はおよそ4340万人という数字もあります。ロンドンだけでなく英国全土でさまざまな文化事業が行われたといえます。

東京の場合、千代田区の場合はどうでしょうか。千代田区は江戸城開城からの400年以上の歴史と伝統がアピールできる地域であり、たくさんの美術館や博物館などの文化施設もあります。さらには伝統的な文化だけでなく、世界中から注目を集める秋葉原などで生まれている新しい文化の拠点もあります。これだけ古いものと新しいものが同時に体験できるエリアもめずらしいのではないのでしょうか。このような千代田区の魅力を最大限にアピールしながら、現場では世界から訪れる方々を迎える体制をどのように整備していくのか検討していくことが千代田区議会の役割となります。

一過性のイベントではない効果を目指して

2020年の東京オリンピックが東京だけでなく日本の各地域においてもよい効果をもたらす、一過性のイベントで終わるのではなく大会後にもよい効果を残していくようなものになってほしいと思っています。それには千代田区をはじめ、各地域も自分たちで知恵をしぼって工夫していくことが大切です。

パラリンピックの開催も大事なポイントです。知り合いの男の子がシンクロナイズドス

イミングでの参加を目指して頑張っています。障がい者の人たちの活躍の場をパラリンピックの時だけでなく、その後の日本社会にも広げていく試みも同時に行われなければいけません。オリンピックが開催されたあとにこそ、日本にとって、千代田区にとって、よりよいものが生まれていくような大会になるよう区議会で検討を重ねていきたいです。

⑤防災に強いまちづくり 各家庭の防災力のアップ

コミュニティの強化こそが最大の備え

防災に強いインフラの整備はもちろんですが、防災に強いコミュニティづくりもとても大事だと思います。2011年3月11日の東日本大震災の時、私の家には年老いた母だけがいきました。家族がそれぞれ別の場所において、家の状況がわからない中で、何人ものご近所さんが母の安否を確認してくれました。そして、その夜は帰宅困難になってしまった知り合いや水道が止まってしまった近隣の方などがわが家に泊まりました。あの時の体験から、つくづく日頃のコミュニケーションがなければ、こういった協力もできなかったなと思いました。

地域の一員としての自覚を共にできるように

私が住む地域では町会長さんや婦人部長さんたちと「防災ガイドブック」をつくりました。その防災ガイドブックはそれぞれの地域に合った必要事項を書き込むような仕様になっており、より有効性の高いガイドブックになっています。このガイドブックの配布範囲は、今は町会が中心になっていますが、できるならばマンションに住んでいる方で町会には個人では加入していない住民の方々にも広めたいものです。ガイドブックを通じて、同じ地域の一員としての自覚を共にするとともに、災害時の協力体制なども協議できたらよいと思っています。

近所の高齢者や子どもなどの災害弱者の把握も大事です。それには普段からのコミュニティづくりが重要であり、そのことが各家庭の防災力のアップにもつながります。そういったことの促進をサポートしていくことが、各地域の区議会議員の役目だと思っています。

⑥JR神田駅改修完了後の環境整備と商店街の活性化

改修を活性化のチャンスにしていく

北陸新幹線の開通に伴う高層高架化など、神田駅周辺では住民の方々には大きな負担がかかりました。それだからこそ、かえって今回の改修を契機に商店街が活性化することで恩恵を受けてほしいと思っています。一つ、京浜東北線の快速が神田駅を通過しなくなったことはメリットでした。神田を通過地点にしないで、人の立ち寄る魅力的なエリアにしていくには商店街の活性化が欠かせません。

地域住民も利用して活気のある商店街に

現状では神田駅周辺は在勤者を中心とした商店街になっています。それはそれでいいのですが、地域住民の方々の利用ということに関してはまだまだ活性化の余地があります。元々商店街というのは地元の方が買い物に行くところなのですが、神田駅周辺で買い物をする住民の方はあまりいません。しかし、周辺ではファミリータイプのマンションが急増し、まちの人口が増えていることを考えると、将来的には神田駅周辺の商店街は地元の方々が気軽に立ち寄れて買い物ができるようなお店が増えることが望めますし、若い世代の商店経営者も持続して自分の地元で経営できるような活性化の方向を目指さなくてはなりません。

地域の試みをサポートするのが地元区議の役目

神田駅周辺の商店街ではクーポン発行などについて、時代になかったデジタル化がすすめられており、消費者にとっても商店街にとってもメリットがあるような仕組みづくりが検討されています。そういった地元の方々の協議に加わるとともに、それを実現するための行政等への橋渡しなどが議員の役目となっていきます。神田公園地区で自民党議員は私一人ですので、神田公園地区の地元議員として積極的にサポートしていきたいと思っています。

⑦神田一八エリアの商業観光を目指した活性化

まちの活性化の一つのモデルとしての神田一八エリア

神田駅の商店街が地域外の方々の利用が多く、住民の方々の利用が少ないというケースとするならば、こちらの神田須田町、多町、司町、美土代町にまたがる一八通りの神田一八エリアについては「観光」を目指していることがポイントです。いかに地元だけでなく地域外の方々もふくめたにぎわいをつくりだすことができるのかということを考えていかなければなりません。

神田駅商店街も神田一八エリアも私の住んでいる地区のケースについてですが、その活性化については、神田地区に限らない、千代田区全域で応用可能な一つのモデルとして考えていただければと思います。

「市」が立っていたころのまちのにぎわい

かつて一八通りには1と8のつく日に夜市が開かれました。いつも一八通りでお店を開いている商店はもちろん、そこにはない商品を取り扱うお店も特別出店し、市の開く時には人も集まり、子どもから大人まで楽しく買い物をしていました。みんなこの日が来るのを心待ちにしていました。現在では「マルシェ」などと称して、マンションの広場などで

市場を開いているところもあるように、まさに一八通りで昔行われていたのはそのようなものの先がけだったと思います。しかし、いつの頃からかその市も立たなくなり、今では名残でその日を特売日にしているお店が残っているだけです。

新しい交流の場としての可能性を考えていく

けれども神田は新しい住民の方々が急増しているエリアですし、今こそ当時のようなぎわいが復活するのもいいのではないのでしょうか。新しくこの地区に住むようになった方々もこうした交流を通して地元とのつながりを深めていくきっかけづくりにもなりますし、地域外の人たちにもこのエリアの魅力が伝われば、観光的な要素も含めてまちが活性化されていきます。

一八エリアでは若い世代の経営者たちがこのままではこの地区が沈んでしまうことに危機感を抱いています。時代もまちの構成員も変化していく中で、どのように新しいにぎわいをつくりだしていくことができるのか協議していく必要があります。そのような動きをサポートしながら神田のまちが魅力のある、住んでいて楽しいまちになり、それに伴って商業も観光も発展していくようなエリアになってほしいと思っています。

「ずっと住み続けたいまち」は楽しい魅力にあふれているまち

千代田区では電線の地中化もすすみ、まちの景観の美化が目指されています。そのきれいになったまちを活用しながら、多くの千代田区のまちが、地元に着した商業が展開され、住んでいる人にも地域外の人にも魅力のあるまちになっていってほしいです。「ずっと住み続けたいまち」であることが大事だと思います。それらの実現に向けて、千代田区に生まれ、千代田区で暮らし、千代田区で働いてきた者として、伝統をふまえながらも新しい千代田区の未来に向かって力を尽くしていきたいです。

松本よしこ